

乳癌検診を受けられる方へ

マンモグラフィと放射線被ばく

マンモグラフィとは乳房に放射線を照射し撮影する検査です。放射線を使用する検査は「被曝線量が上昇すると発癌率が上昇する」ということが研究より明らかとなっており、マンモグラフィも同様です。マンモグラフィによる被曝線量は東京・ニューヨーク間を往復する飛行機内で浴びる放射線量と同じくらいで危険性は少ないですが、乳腺は放射線の影響を受けやすい組織であるため、慎重に行う必要があります。

特に若年者（特に20代）は若いうちから毎年検診を受けることで被曝線量が増えていくため、メリットだけでなくリスクも考慮して検診を行う必要があります。

致死発癌の生涯リスク係数 (%/Sv)

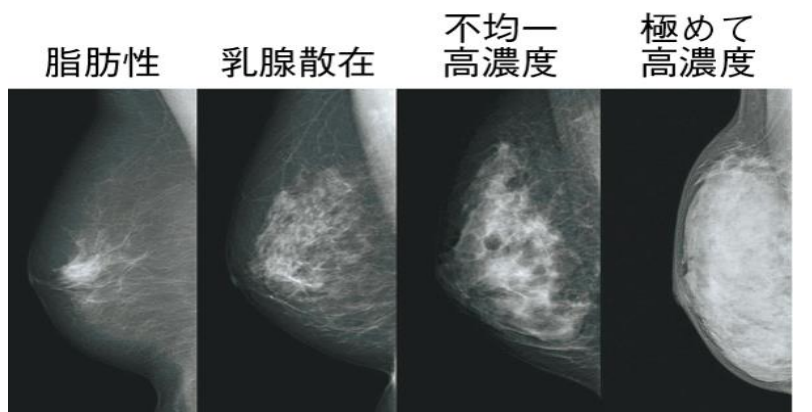
年齢(歳)	21~40	41~60	61~80	>80
リスク(%)	5.5	2.5	1.2	0.2

マンモグラフィガイドライン 第4版 より

年齢が低い群ほど放射線による発癌リスクが高いことがわかります

高濃度乳腺とは

マンモグラフィでは乳腺や病変は白く写り、脂肪は黒く写ります。乳腺の発達している若年者は乳房が全体的に白く写るため、病変が見えづらくなります（図参照）。このように乳腺の密度が濃く、マンモグラフィで白く写る乳房を「高濃度乳腺」と言います。若年者の方は見落としを防ぐために超音波検査がお勧めです。



高年齢 ← 年齢 → 若年

易 ← マンモでの見つけやすさ → 難

当クリニックの乳癌検診方法



- 当クリニックの乳癌検診は予約制です。
- マンモグラフィ撮影と診察を2日に分けて行います。
（撮影後に2名の医師が読影するため）
- マンモグラフィ撮影では多少の痛みを伴います。乳房の圧迫は放射線による被ばく量を低減するためや乳腺の重なりを減らし病変を見つけやすくするためです。苦痛が強い場合は我慢せずに担当技師にお話してください。

結びに…

マンモグラフィは乳癌の早期発見に役立つ一方、リスクがあるのも事実です。若年者（特に20代）は上記情報を参考に、ご自身に適した検診方法を今一度ご検討いただければと思います。また、ご家族に乳癌や卵巣癌に罹患した方がいる場合は、検診の開始時期や方法も異なりますので専門医にお問い合わせください。その他ご不明な点がございましたら、遠慮なく当クリニックにお問い合わせください。